

An illustration of a person from behind, wearing a dark blue kimono and a black obi, with their hair styled in a bun. They are standing on a sandy beach looking out at a bright blue ocean under a clear sky with a large, fluffy white cloud. The person is holding a long wooden staff or pole.

SDGs紙芝居

うらしまろ

発行者：株式会社ネクストエージ、株式会社グローブ・ハート
脚本：株式会社ネクストエージ
仙台青葉学院短期大学こども学科おのせゼミ
監修：おのせたけし
絵：天池美乃

昔、浦島太郎という漁師がいました。

太郎は、砂浜でいじめられていたカメを助けたお礼に、海の中の竜宮城に連れて行ってもらいました。

夢のような暮らしが長く続き、帰りに玉手箱をもらいました。

砂浜に戻ると、親も友達も誰もいません。玉手箱を開けると、浦島太郎はおじいさんになった、と言うお話でした。

今から話すのは、浦島太郎とは別の人の「うらしまじろう」のお話です。



ある日、砂浜を歩いていたらうらしまじろうは、泣いているカメを見つけてきました。

「どうしたんですか？」

うらしまじろうはカメに言いました。



カメは言いました。

「手に釣り糸がからまってとれなくなっただのです。」

うらしまじろうは、カメに絡まっていた釣り糸を

とって、包帯を巻いてあげました。

カメは、お礼を言っって、海に帰っていきました。



それから何日かたって、うらしまじろうは、またカメが砂浜で泣いているのを見つけました。

「今度はどうしたんですか？」

カメは言いました。

「食べたクラゲがのどにひっかかって取れないんです」。

よく見ると、カメの喉にひっかかっていたのは、小さな赤いくしでした。

うらしまじろうがそれを取ってあげると、カメはお礼を言っ、海に帰っていきました。



そんなことが続いたある日、うらしまじろうは村人たちを集めて、言いました。

「この中にカメを傷つけたものがおる。」

村人たちは顔を見合わせて、言いました。

「私はカメを傷つけてなんかいませんよ。三郎さんじゃないですか？」

「いえ、私もそんなことはしませんよ。四郎さんじゃないですか？」

「いえいえ、とんでもない。五郎さんじゃないですか？」

そして、最後に、村人たちは口をそろえて、こう言いました。

「いったい誰がそんなことをしたんですか？」



うらしまじろうは、みんなのことをじつと見^みつめて
言^いいました。

「カ^かメを傷^{きず}つけていたのは、わしたちみんなじゃ」。

⑥じろうが村人を集めた絵の裏



うらしまじろうは傷ついたカメのことをみんなに話
しました。

村人たちはそれぞれ思い当たるところがありました。
た。

⑦じろうが村人に対して話す絵の裏



その日の夜、村人たちは夜遅くまでカメラを傷つけないようにするにはどうしたらいいか話し合いをしました。

「釣りをしたら、ちゃんとあと片付けをして帰ろう」。

「みんなで浜辺のゴミ拾いをしよう」。

「川辺に住んでいる、となり村の人たちにも、川にゴミを捨てないように協力してもらおう。川は海につながっているからね」。

村人からはいろいろな意見が出ました。

次の日から、村人たちは話し合ったことを少しずつ行っていました。

すると、しばらくして、村の砂浜では、泣いているカメラをみることはなくなりました。



お礼れいにうらしまじろうや村人むらびとたちが竜宮城りゅうきゆうじょうに招かれ
たかはわかりません。
もし、招まねかれていたとしたら、海うみの中なかは大騒おおさわぎだつ
たかも知しれません。
おしまい。

⑨村人が海を汚さないように考えた絵の裏



今日はみんなの大好きな紙芝居を読みます。

「うらしまじろ」とうらしまじろのお話です。

みんな、浦島太郎のお話は知っているかな？

なんと、うらしまじろと浦島太郎は別の人なんです。

まずは、浦島太郎のお話を振り返りましょう。